

パネルディスカッション5

「胃・大腸がん検診の現状と課題」

司会 今枝 博之（埼玉医科大学消化管内科）

松田 尚久（東邦大学医療センター大森病院消化器内科）

2016年から対策型胃がん検診に内視鏡検査が導入されたが、大腸がん検診への大腸内視鏡検査の導入には至っていない。胃・大腸内視鏡検査によるがん検診は、病変の早期発見と死亡率減少が期待されるものの、安全性と質の担保（精度管理）が重要である。また、低い受診率やリスク層別化、費用対効果など解決すべき問題が多く含まれている。本セッションでは、胃・大腸内視鏡検診にフォーカスし、対策型・任意型検診の両方の立場から、その現状と課題に関する演題を広く募集する。今後の内視鏡検診のあり方について議論したい。